

小島ゆかり ○歌人

辻原 登 ○作家

長谷川 權 ○俳人



五月十四日に、東海大学湘南キャンパスで開かれた湘南連句座談会は、三人の選者の「発句」「脇句」「第三」に続けて、参加者が句を付けていく会場参加型の催し。連句の楽しさを味わう座談会の後編――。

### 裏六句で場面の变化を

#### 〔七句目〕

長谷川 「アリギリスという道もありなん」で表六句は終わりです。次からは裏六句に入りますが、もう一回、秋の句を付けてください。今度は五・七・五です。

#### (選句中)

小島 裏六句は、表六句と、ガラツと変わるといいですね。

辻原 クルツと変化してほしいところです。

#### (最終選考)

長谷川 では、三句を選びました。表六句を見ると、みなさん、「国難や……」を引きずって、すこしシケているので、趣向を変えたいところです。どうでしょうか。

・花野には我待つ人もあるだろう

・秋の田のみのり願いて汗流す

・夢を見てふと気がつけば秋ふかし

辻原 表のできごとを、すべて夢にってしまうのいいですね。

長谷川 なるほど。小島さん、「夢を見てふと……」は、どうですか？

小島 いいと思います。

長谷川 たしかにこれだと、いい場面転換になるかもしれません。では「夢を見てふと気がつけば秋ふかし」にしましょう。これは、誰の句ですか？

会場 加藤弘樹です。

加藤 一年生です。

小島 句に貫禄がありますね(笑)。

#### 〔八句目〕

長谷川 今度は七・七、しかも冬の恋の句で考えていただきますので、ちょっと難しいですよ。

「秋ふかし」が、冬に移り変わるわけです。それから「夢を見てふと……」に付く句と、また次で、恋の歌が続きますので、あまり最初から失恋をうたってしまうのではなく、夢や希望のある恋を表現したほうがいい

### ●第8回東海大学湘南連句

#### 六曲一双 『柏餅の巻』

##### 〔表六句〕

発句 〈夏〉 国難や一の頼みの柏餅 長谷川權

脇句 〈夏〉 身を投げうってかなぶんになる 小島ゆかり

第三 〈夏〉 この夏は防人歌声低く 辻原 登

四句目〈雑〉 ノレンに腕をおして鍛える 室井光広

五句目〈秋月〉 月見酒自棄になっても職はなぐ 勝山貴史

六句目〈秋〉 アリギリスという道もありなん 室井光広

##### 〔裏六句〕

七句目〈秋〉 夢を見てふと気がつけば秋ふかし 加藤弘樹

八句目〈冬恋〉 枕元のサンタ気まずし 大塚慎太郎

九句目〈雑恋〉 恋人は伊藤加藤と藤がつく 山室 茂

十句目〈春〉 十日すぎれば子猫がなつく 高松紗都子

十一句目〈春花〉 念願の一姫二太郎初桜 吉岡和枝

挙句 〈春〉 山河に響くウグイスの声 須山冬海